

# 学部長あいさつ

環境科学部は、平成9年（1997）年10月に国立大学で初めて環境科学に関する文理融合の専門学部として創立され、翌年の4月に第1期生を迎えてから、平成25（2013）年3月に第12期生を社会へ送り出しました。これまでに1,751名（内108名が留学生）の卒業生を送り出し多くの先輩達が社会の様々な場所で活躍しています。

この間、平成14（2002）年4月には、大学院環境科学研究科修士課程（環境共生政策学専攻及び環境保全設計学専攻）が設置されました。平成16年（2004）年4月には大学院生産科学研究科に博士前期課程と博士後期課程（環境科学専攻）として、さらに、平成23（2011）年4月には、水産・環境科学総合研究科として改組され、学部から大学院博士後期課程に至る充実した組織として新たに出発しました。

本学部は創設以来、「人間と環境との調和的共生」を目指して、多様な学問や科学の領域を超えて文理融合の環境教育と問題解決型環境スペシャリストの養成をしてきました。これを可能にしたのが文理の基礎科目と専門科目、少人数のゼミナールや学外で行われるフィールド学習、インターンシップ科目などです。さらに、所定の授業を履修することで「社会調査士」と「環境再生医」の資格が取得できるようになりました。

また、GPA（Grade Point Average）方式により成績の総合評価を行い、成績優秀者には早期卒業（3年間で卒業）の道を開き、大学院でのより高度な学問により早く接することを可能にする機会を制度化しました。海外の大学で取得した単位を環境科学部での単位として認める交換留学生の制度も充実しており、本人の努力次第で留学期間を含めて4年間で卒業することも可能です。

平成23（2011）年3月11日に発生した東日本大震災以降、環境問題、特にエネルギー問題の解決はこれまで以上に重要な課題となりました。それらの課題に取り組んでいく有為な人材を輩出することこそは環境科学部の社会的使命です。

大学で学ぶことを目指している皆さん、地球環境問題に取り組むための高度の知識と広い視野を持って環境に対する確たる考えを獲得し、真に地球社会に貢献できる人間になるために、環境科学部でともに学び、ともに研究してみませんか。多くの諸君が環境科学部への入学を目指すことを期待しています。



環境科学部長  
田井村 明博